

面

# 男声合唱団 「風」

## 第1回演奏会

日時：2000年6月18日(日)  
午後1時30分 開場  
午後2時 開演

会場：アラベスクホール  
(加古川ウエルネスパーク内)



## 第1回演奏会によせて



風 私達にとって風とは「自由」の表徴です。  
音楽すること それは私達が作品の前に何の夾雑物も入れずじかに向き合い、聞き合い、響き合わせることです。

ひとはみな、いつも、今の自分でないなにかを求めています。各人がみな自由に選んだ「音楽」の前で、今までにない何かを得ることができるとかどうかは全て各人の責任によります。

私達のメンバーに、本番当、前日の2日間しか、一緒に練習できない、またそこまででなくとも1ヶ月に1回も出られないメンバーが多くいます。

しかしかれらは練習を乱すどころか、彼らの存在によって練習は、より緊張感が高まり、非常に密度の高いものとなるのです。

これは、彼らが音楽と真摯に向き合うために行なっている、見えない努力と集中からきているのです。

そして彼らの迫力に、通常のメンバーもただ毎回練習に出られるからといって、うかうかできないということから、彼らもそのテンションが高まるという相乗効果さえ出ているのです。

文化は、芸術は、音楽は、時間が豊かにある人たちのものなののでしょうか。あるいは子供や学生達の学びの、教養の単なる対象なののでしょうか。

私達のメンバーは、ほとんどがいわゆる働き盛りの年齢です。しかし、残念ながらその私達に音楽をする環境は決してやさしくはありません。

でも本当のものはそんな中に生まれるのです。

時間は、ただ流れる物理的な長さではありません。その深さこそが価値をもちます。

ただ一瞬であっても、全てを変えてしまう「とき」もあるのです。

私達はそういう芸術のもつ力を信じ、音楽をする喜びを求めて、今後とも活動を続けて行きたいと思えます。

代表 中西 孝



# Sea Chanties

•Swansea Town

Arr. by Alice Parker & Robert Shaw

•Whup ! Jamboree

Arr. by Alice Parker & Robert Shaw

•Sailing Sailing

Arr. by Roger Wagner

•Shenandoah

Arr. by Alice Parker & Robert Shaw

•What shall we do with  
the Drunken Sailor

Arr. by Alice Parker & Robert Shaw

男声合唱組曲

## 草野心平の詩から

草野心平 作詩

多田武彦 作曲

I. 石家荘にて

II. 天

III. 金魚

IV. 雨

V. さくら散る

———— Intermission ————

男声合唱のための **アイヌのウポポ**

近藤鏡二郎 採譜

清水 脩 作曲

I. くじら祭り

II. イヨマンテ

III. ピリカピリカ

IV. 日食月食に祈るうた

V. 恋歌

VI. 輪舞 (リムセ)

男声合唱組曲 **雨**

多田武彦 作曲

I. 雨の来る前

伊藤 整 作詩

II. 武蔵野の雨

大木惇夫 作詩

III. 雨の日の遊動円木

大木惇夫 作詩

V. 雨の日に見る

大木惇夫 作詩

VI. 雨

八木重吉 作詩

## 団歌 Blow in your heart

### あなたの心の中に吹込め

我々は、(風が起こす) 海よりの大波のような(雄々しい) 音色を創り出したい  
我々は、丘より吹く甘いそよ風のような(やさしい) 音色を創り出したい  
風は、大気の中を(自由に) 吹き流れ、様々な音、調子を持っている  
我々もあなたに(我々の持っている) それら(の音色) を表現したい  
我々は、あなたの心に吹き込むように共に歌い上げたい

我々は、あなたの口から漏れるため息のような音色を創り出したい  
我々は、あなたの心から発せられる歓喜のような音色を創り出したい  
心は、常に揺れ動きながらも、真実の(心やすらぐ) 平和を願い求めている  
我々もあなたに(我々の持っている音で、ひとときでも心のやすらぎを) 表現したい  
我々は、あなたの心に吹き込むように共に歌い上げたい

作詞、作曲：岩尾敬一郎

### 「風」すばらしき仲間たち

#### TOP TENOR

伊藤高潤 (名古屋)

名古屋から加古川は遠いニャーモ

岩本雅博 (加古川)

合唱と尺八における純正調の大研究者

大畑 収 (香寺)

性格どおり素直なええ声だしまっせ〜

倉谷修一 (高砂)

個性(個声)の塊のトップのまとめ役

上坂寿人 (加西)

ちちうし達の冷たい視線を背中に……

中村典教 (姫路)

永平寺のパパロッチェ。お経もテノール

戸根正和 (加古川)

色の専門家、出張が何よりの楽しみ

林 三郎 (加古川)

合唱三昧、混声にも、オペラにも

吉川泰司 (富田林)

新婚ほやほや、ぬくぬく、アツアツ

#### SECOND TENOR

伊藤和夫 (神戸)

「雨」だけ歌うつもりやったのに〜

稲岡敏男 (加古川)

鬼の会計。「オ〜イ、会費払えよ〜!」

岩尾敬一郎 (高砂)

団歌の作詞作曲承ります「安しとくで」

織田茂樹 (河内長野)

もっばら飲み屋でパート練習

中西 孝 (稲美)

黙る子も泣かず「風」の代表

原田貞雄 (稲美)

紀子 命——! 「近頃調子いいんだよなア」

東 秀吉 (加古川)

シルバーグレーの粋なやつ(に見えます)

福永理人 (姫路)

セカンドきっての若手ホープ

森 徹 (東京)

東京リーダーターフェル営業所兼務

#### BARITONE

秋国仁孝 (奈良)

本名秋国パンダと申します

内海辰雄 (伊丹)

まじめな性格はまじめな音となる

尾上輝行 (福岡)

子供会のソフトもせんなんし〜

## 指揮者からのメッセージ



私は、言葉を表現できる人間の声が最高の楽器だと思っています。そしてもっとも厄介な楽器だとも思います。

人間の声には、その時々感情を言葉でもって、よりの確に表現する力があります。

しかし、声にはその人間の精神状態、また、体調の良し悪しも正直に出ます。

この人間の声を駆使して表現する音楽芸術である合唱をする上でもっとも大切なことは、合唱団員がいかにか心身共に穏やかな状態で合唱できるか、であると思っています。

しかし、今日の私ども中高年の男性を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。そんな中で、私どもには、メンバーの一人ひとりのことをお互いに思いやり、補い合っ  
て、合唱を作り上げることが必要になります。

私が大学時代を過ごした合唱団には「メンタルハーモニー」というモットーがあります。若い頃はあまり好きな言葉ではなかったのですが、この年になり「メンタルハーモニー」の大切さ、楽しさがこの男声合唱団「風」を通じて感じられるようになりました。本日ステージに立つ団員の一人ひとりの心がハーモニーとなって皆様の心に届かんことを願っています。

畑 博道

桂木英明 (神戸)  
ピアノも弾ける「貴公子」だった!!

北野恵三 (加西)  
まいどっ!しゃべり過ぎて耳鼻科で点滴ですわ

竹下利夫 (高砂)  
宴会をシキリまくる男。「ネーさん、しおさば3ツ」

田中琢馬 (高砂)  
風のホームページの作成中。でけたら見てよ

得田拓也 (加古川)  
先生は野球、サッカー、ブラバンで大忙し

古坂健三 (稲美)  
酔うたら 笑う~泣く~寝る のワンパターン

三木文夫 (姫路)  
しかまはまかし(飾磨は任し) きみのみき (君の三木)

渡辺博之 (奈良)  
釣とゴルフはシングル級。これホンマ

水口 順 (西宮)  
トップも歌えるオールラウンドプレイヤー

### BASS

今井修一 (姫路)  
姫路の財政、一手引き受けとりまんねん

芋野一男 (交野)  
干からびた心に慈の雨を降らせませす

小谷啓二郎 (高砂)  
チョー重低音のクリスチャン

近藤 真 (伊丹)  
ええ合唱あるところに近藤あり

住川正彦 (奈良)  
バリバリっと響かして硝子メギます

竹川昌宏 (高砂)  
人間より植物の方がわかりやすいわ

野村恵一 (姫路)  
音程確か気も確か狐六法踏み行かん

畑 博道 (加古川)  
変ったヤツラを相手に今日も大奮闘!

飛鷹 誠 (神戸)  
広島メンネルもええでえ~

古坂安志 (神戸)  
アイヌのカラスをやらせたら日本一!

堀 英教 (加古川)  
モグリならまかして 海中はきれいで~

山内 要 (八尾)  
土山から寝屋川へ...「遠なったの~」

原

題字 前田千雲